

○19番 日高凜君

中京中学校3年、日高凜です。私は、理想の行橋市について、質問します。

日本の社会問題として、都市部の過密に対する地方の過疎化があります。X・旧ツイッターの行橋市公式アカウントによると、2025年の行橋市の人口は、7万37人。公式ホームページの国勢調査人口の推移によると、過去最多人口を記録した2020年の人口は7万1,426人と、極端な変化ではありませんが、2020年から減少傾向にあります。

また、第3次行橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略では、将来的に行橋市が急速な少子高齢化、人口減少を迎える旨が記載されています。また、少子高齢化、人口減少などに対する対策や施策などの記載もありましたが、行橋市の過疎化を防ぐことによって、実現されることが望まれる理想の行橋市は、どんな市ですか。

このことについて、執行部は、どのようにお考えでしょうか。

○前半議長 和嶋富夏君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

日高議員のご質問にお答えします。

まず、過疎について少し触れさせていただきますけれども、過疎というのは、基本的には人口が著しく減少していく状態にあること、そして生活環境や、そういった整備が著しく他の地域と比較して遅れている状態、そういったことを言います。また若者がどんどん転出していったりですね、そういった状態を過疎というならば、行橋市はまだ過疎という状況には至っておりません。

いま議員からのご説明にございましたように、2025年の国勢調査では、2020年、5年前と比較すると1,389人、人口が減少しております。

ただ、これは、私は議員時代からも申し上げてきておりますけれども、総人口が減るということは、もうだいぶ前から予測できていたことです。ですので、この総人口が減るということを恐れる必要はないと思っております。大切なことというのは、働き盛りの方々、15歳から64歳までの方々を生産年齢人口と言いますけれども、こういった方々、働き盛りの方々や子どもたち。お子さんたちも徐々にいま減る傾向に入っていくんですけれども、そういう若い世代、まちに活気をもたらし、そして食べ物もたくさん若い世代は食べますし、購買意欲と言いますが、物を買ったり、そういった意欲も若い世代は高いと言われております。つまりそういった方々が多ければ経済が回るということですね。ですので、そういった若い世代にいかに行橋市を選んで住み続けていただくか。ここがポイントなのかなと思っております。

その中で、私は常日頃から、これからの行橋の姿を協創都市YUKUHASHIと言っています。協創の協は協力の協、創は創りあげるの創ですね。YUKUHASHIは、あえてアルファベットにさせていただいておりますけれども、これは世界に開かれたというイメージです。みんなで世界に開かれた行橋市をつくっていく、そんなイメージを持っていただければと思います。

と同時に、その協創都市YUKUHASHIであると同時に、いつまでも安心して楽しく暮らしていただくまち、こういったものを方向性としては目指していくべきなのかなと思っています。

切り口によって、分野によって、いろいろな理想を語ることができますので、あえて抽象的なものの言い方をすると、みんなですっと創り上げ続けていく協創都市YUKUHASHI、そして安全で安心に暮らし続けられる行橋を目指していきたいと思っています。

じゃあ具体的にどういったことをしたら、そうした理想的な行橋につながっていくのかというところですが、例えば先ほど議長からお話がございました。行橋市では、全国でも比較的早いほうだと思います、福岡県内でもかなり早いほうですけれども、小中学校の体育館に、これから3年ほどかけてエアコンを整備していく計画をいま既に進めております。これは学習環境の充実、それと災害時に避難場としてしっかりと機能できるように、そういったところで体育館へのエアコン整備を進めております。

また、給食もお話がございました。中学校の給食は、独自で行橋市は無償化しております。と同時に質を維持、また向上させていきたいと思っています。また、その他にもご高齢者のことと言いますと、国の機関と共同して、今年度から認知症予防プログラムの実証研究といったものを進めております。

全ての世代の皆さん方がウェルビーイング、これは幸せという意味ですけれども、幸せを実感できる、より実感できるようなまちづくりを進めていきたいと思っています。

そして、もう一つなんですけれども、それが持続的に、サステナビリティという言葉がありますけれども、ずっと続いていくまちづくりをやっていく。ここでとても重要なのは、市民お一人お一人が他人任せではなくて、自分たちが主体的に、つまりまちの担い手となって、自分たちが中心となって責任を持ってまちづくりをしていく、その一人なんだという自負心、そういったものを持っていただければというふうに思っております。そして、いろいろなかたちで、それこそいま学校で、ある中校生の皆さん方が職場体験に見えておりますけれども、それもその一環ですね、主体性を持って取り組んでいただくという一環でございます。

いろいろなかたちで皆さん方と共に行橋市を創り上げていく。完成形といったものはありませんので、ずっと創り上げていって市が成長・発展し続ける、こういったところ

を目ざしたいと思っております。以上です。

○前半議長 和嶋富夏君

日高議員。

○19番 日高凜君

ただいま若い世代や、みんなで行橋市を創っていく、というご答弁がございましたが、市長のお考えになる理想の行橋市を実現させるために、私たち子どもができることは、どんなことでしょうか。

○前半議長 和嶋富夏君

執行部に答弁を求めます。

市長。

○市長 工藤政宏君

ありがとうございます。まずはやっぱり、こういった子ども議会などの場に出て来ていただくことは、とても意義のあることだと思います。

それから、よく二十歳のつどいというのがございますが、その時に私が必ず言っているのは、10代後半から20代前半にかけて、できれば行橋を一度飛び出してください、というふうに言っております。僕は、帰って来てください、とは言いつもりはないんです。とにかく、まずはどこに住んでいても皆さん方が自分の人生を自分で切り拓いていく。そして自分の人生に少しでも納得できる人生を過ごす。そして、どこの地にいても自分がウェルビーイング、幸福感を実感できている、自分は幸せだ、というふうに言えるということが大切だと思っております。

1回外に出れば、行橋だけではなく様々な土地、地域、国の価値観、様々な人々に触れることができます。ですので、ぜひともいろいろな所にまずは飛び出して、いろんなものを見て、いろんな人に会って、いろんなことを感じる。食べ物でも何でもそうですね、五感で感じる。こういったことが行橋を実は見つめ直す、行橋のことを考えることにもつながると思っています。

あとは行橋市内でいろいろなイベントや行事ごとがあります。ホームページで、例えばネットで、行橋 イベント、で調べていただければ、たくさん出てきます。ぜひそういったものにも積極的にご参加いただく、これがいま議員からのご質問の答えにつながっていくのかなと思っています。以上です。

○前半議長 和嶋富夏君

日高議員。

○19番 日高凜君

ご丁寧な回答、ありがとうございます。私たちが地元行橋市に関心を持つ第一歩として、私たち小中高生をターゲットにした行橋市を知るイベントや機会を増やしていただ

くことを要望いたします。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。